

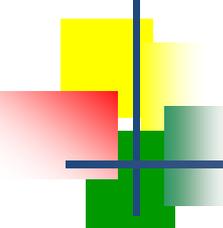
棚POWER[®]

サーバー導入によるデータの一元管理について



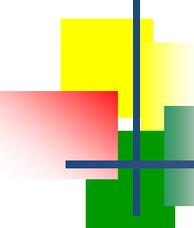
2017年1月





目次

サーバー運用について	2
棚POWER利用環境の選択	3
必要な設定（各クライアント）	4
必要な設定（サーバー）	6
参考）基幹系システム連携によるマスター自動更新	7



サーバー運用について

棚POWERのプログラムや各マスターは、ユーザー個々のパソコン（クライアント）で管理する「スタンドアロン運用」だけでなく、社内サーバー上で一元管理する「C/S運用」「WEB運用」にも対応しています。

棚POWERのプログラムを一元管理する場合は「アプリケーションサーバー」が、マスターを一元管理する場合は「データベースサーバー」が必要です。

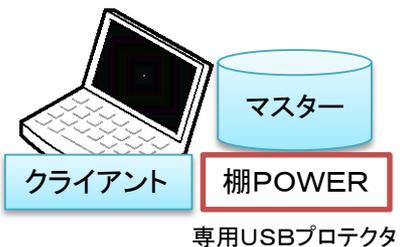
必要なサーバー環境が整えば、棚POWER側は環境設定を変更するだけで運用の変更が可能のため、自社にあった運用スタイルを選択する事ができます。

本書では、棚POWERの利用環境による違い、必要な設定について紹介しています。

棚POWER利用環境の選択

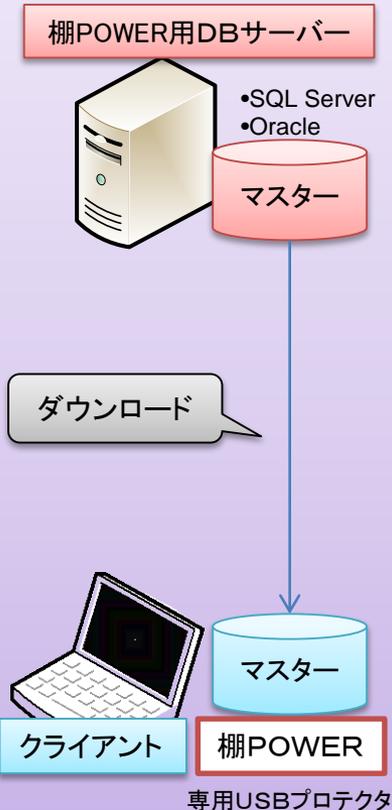
棚POWER環境設定で利用環境を選択

A 利用環境: クライアント



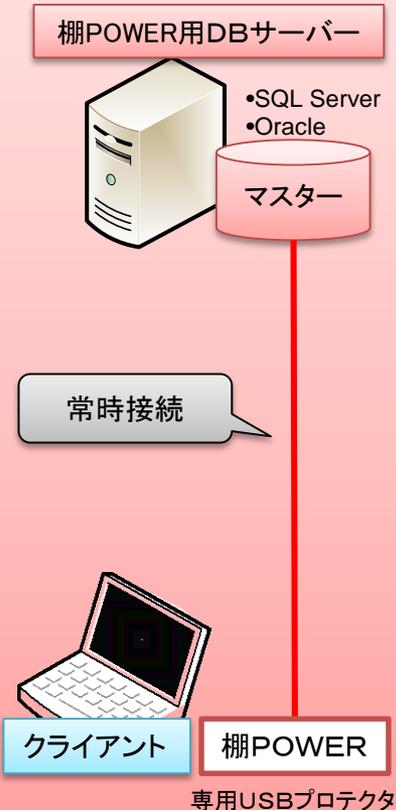
- 棚POWERは各クライアントにインストール
- マスターも各クライアントで管理

B 利用環境: クライアント + サーバー環境を使用



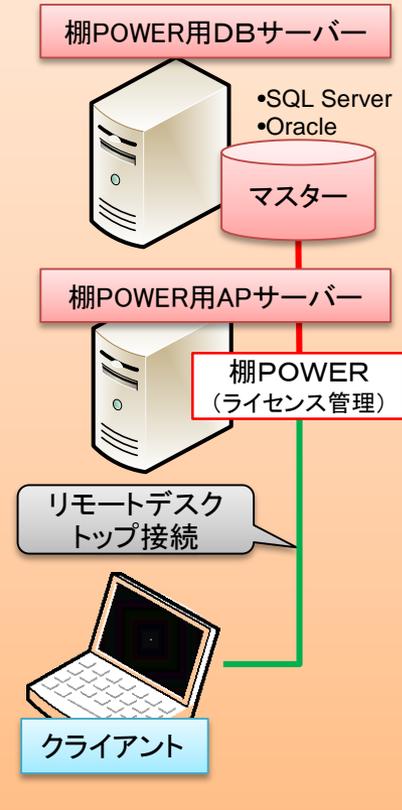
- 棚POWERは各クライアントにインストール
- マスターはサーバーで一元管理
- マスターをダウンロードしてパソコンの持ち出しも可能

C 利用環境: サーバー



- 棚POWERは各クライアントにインストール
- マスターはサーバーで一元管理
- ネットワーク外へのパソコン持ち出し不可

D 利用環境: サーバー



- 棚POWERはサーバーにインストールし一元管理
- マスターもサーバーで一元管理

必要な設定(各クライアント)

環境設定の変更だけで対応できます

●基本設定

環境設定

基本設定(1) 基本設定(2) 基本設定(3) サーバー 3D

利用環境

クライアント サーバー環境を使用する

サーバー

フォルダの設定

マスター情報
C:\TPOWER\data%

画像情報
C:\TPOWER\img%

売上情報
C:\TPOWER\sale%

棚割モデル情報
C:\TPOWER\mdl%

仕替情報
C:\TPOWER\fix%

画像読込
C:\TPOWER%

外部初期
C:\TPOWER%

設定ファイル
C:\TPOWER\save%

出力(O) 設定(S) 終了(E)

●サーバー設定

環境設定

基本設定(1) 基本設定(2) 基本設定(3) サーバー 3D

データベース

SQL Server Oracle

認証(SQL Server)

SQL Server 認証 Windows 認証

データソース名
SQLSV

データベース(SQL Server)
TANAPOWER

ユーザーID
CyberLinks

パスワード

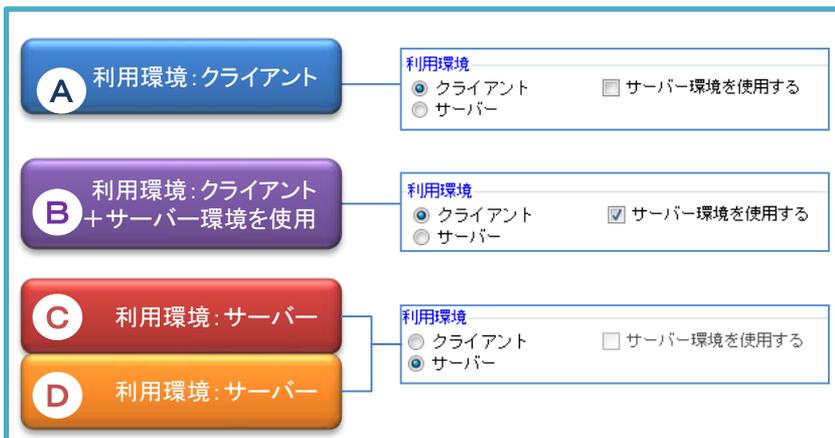
画像情報(サーバー)

フォルダ管理 データベース管理

C:\TPOWER\sv_img%

接続プロバイダ
Oracle社提供プロバイダ(Oracle Data Provider for .NET)

出力(O) 設定(S) 終了(E)



・データベースとの接続設定

・サーバー上の画像フォルダ指定

必要な設定（各クライアント）

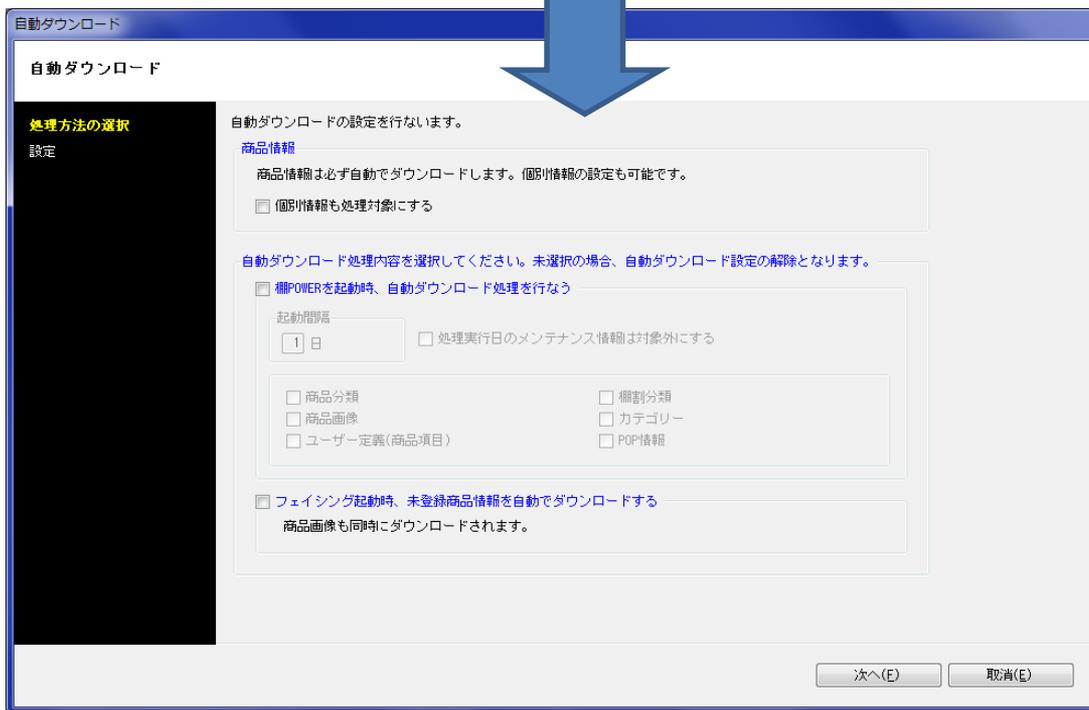
環境設定の変更だけで対応できます

B 利用環境：クライアント
サーバー環境を利用

クライアント・サーバー間でのデータやりとり



利用環境＝「クライアント」＋「サーバー環境を使用する」場合は、データ移行タブからデータのアップロード/ダウンロードが行なえます。
ダウンロードは、都度の手動ダウンロードだけでなく自動ダウンロードの設定も可能です。



自動ダウンロードの頻度、
対象データの選択を行なえます。

棚割モデルを編集する際に、不足している商品情報・商品
画像を自動でダウンロードする事も可能です。

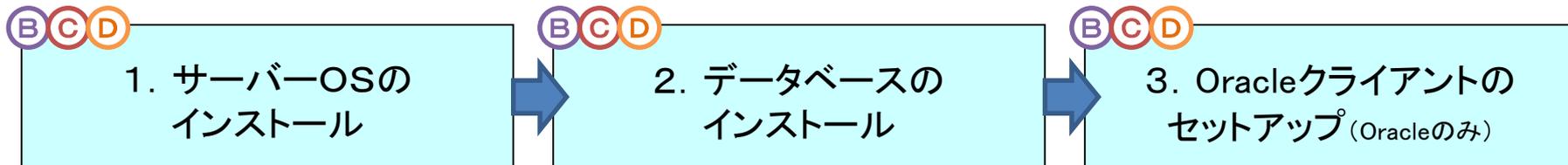
必要な設定(サーバー側)

B 利用環境: クライアント
サーバー環境を利用

C 利用環境: サーバー
(データベースサーバー)

D 利用環境: サーバー
(データベースサーバー+
アプリケーションサーバー)

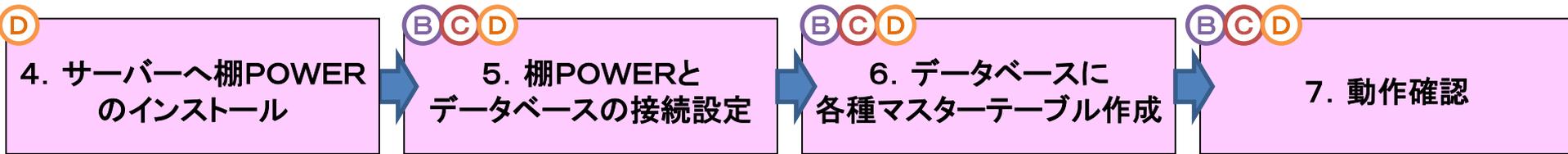
1~3: サーバー、データベースの導入(ユーザー様で行なうか、システムベンダーへご依頼ください)



・画像情報フォルダーを作成し ネットワーク共有。
※クライアントから参照、更新できる環境が必要。
パスワード認証が必要な場合、棚POWERから接続できませんのでご注意ください。

・データベースサーバーへSQL Server
または Oracle をインストール。
・棚POWER用のデータベースを作成。
・データベース接続用ユーザーIDを作成。
※ユーザーIDの権限は「参照」「更新」「テーブル作成権限」が必要です。

4~7: 棚POWERを接続するための「サーバー調整」(以下はサイバーリンクスで有償対応しています)



・アプリケーションサーバーへインストール。
・ライセンス管理を実施。

・棚POWERのサーバー環境設定。
※接続設定をするクライアントの数が多い場合は、ユーザー様での設定作業をお願いする場合がございます。

・各種テーブルの作成。

・必要に応じて旧環境からデータの移行も実施。

◆動作環境

サーバーOS : Windows Server 2008 / 2008R2 / 2012 / 2012R2

サーバーDB : SQL Server 2008 / 2008R2 / 2012 / 2014 または Oracle 11g / 12c

クライアントOS : Windows Vista / 7 / 8 / 8.1 / 10

【参考】基幹系システム連携によるマスター自動更新

マスター連携のための専用パッケージ「TP-INOUT」

TP-INOUT[®]
for **POWERS**

棚POWERサーバーと基幹系その他システムとで商品マスター等のデータ連携が可能。

棚POWERの商品情報や商品画像、売上情報マスターの自動更新が可能。

パッケージシステムなので最小コストで導入でき将来のマスター仕様変更にも対応。

